

1. 平成23年度一般会計決算のポイント

《実質収支》実質収支は57億1,800万円の黒字
 ～震災対策を着実に推進するとともに、市税は3年ぶりの増収に転じる～

決算の規模としては、震災対策を着実に進めたことなどにより2年ぶりの増加となりました。また、市税は3年ぶりの増収となりましたが、直近10年間で税収が一番多かった20年度と比べると239億8,800万円少なく、依然として厳しい状況は続いています。

実質収支については、2月補正時点での見込よりも、市税や県税交付金が増加したことなどにより、57億1,800万円の黒字となりました。

なお、実質収支の1/2（28億5,900万円）は財政調整基金に繰り入れ、残りの1/2は24年度の財源として活用します。

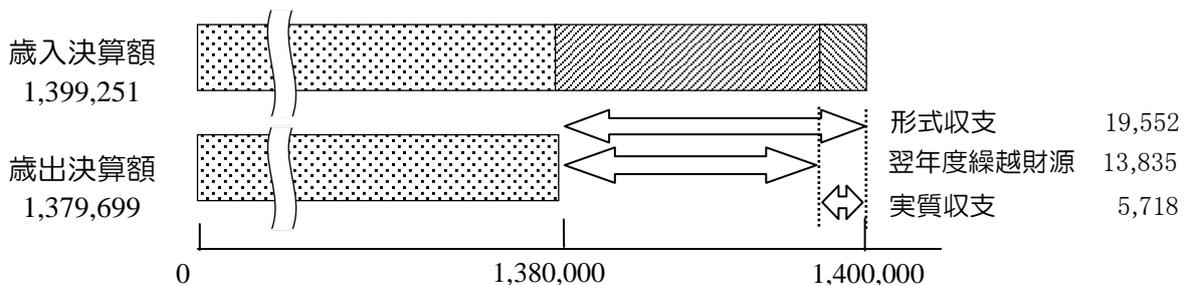
◇一般会計決算の状況

(単位：百万円)

区 分	23年度①	22年度②	増減①-②
歳入決算額 A	1,399,251	1,384,832	14,419
歳出決算額 B	1,379,699	1,368,973	10,727
形式収支 C=A-B	19,552	15,859	3,693
繰越財源 D	13,835	11,115	2,720
実質収支 E=C-D	5,718	4,744	974
当該年度に活用した前年度剰余金 F	2,372	580	1,792
当該年度のみ収支 G=E-F	3,346	4,164	▲818

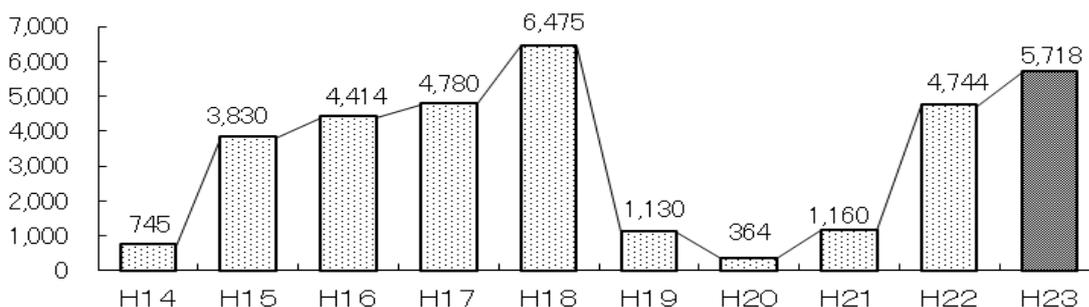
一般会計決算の状況

単位：百万円



実質収支の推移

単位：百万円



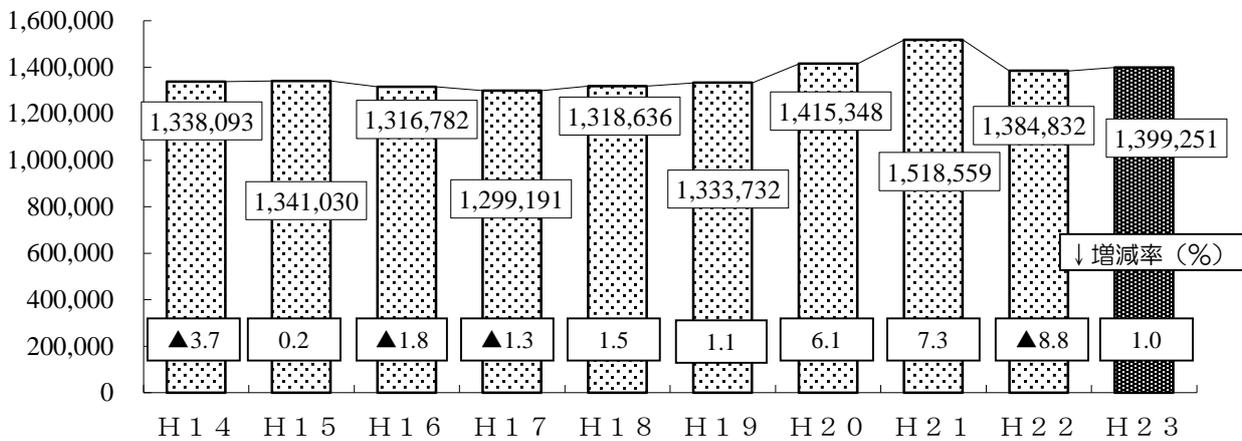
《歳入・歳出》決算額は2年ぶりに増加

決算の規模としては、23年3月に発生した東日本大震災を受けて実施した震災対策を着実に進めたことなどにより、歳入・歳出ともに2年ぶりの増加となりました。

歳入については、前年度に比べ144億1,900万円（1.0%）増の1兆3,992億5,100万円に、歳出については、前年度に比べ107億2,700万円（0.8%）増の1兆3,796億9,900万円となりました。

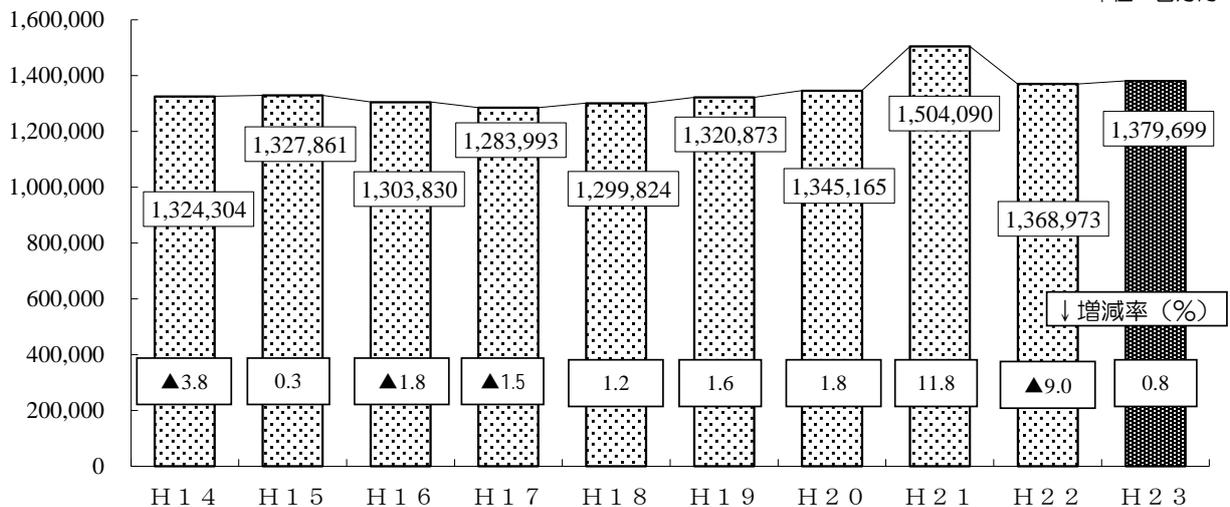
歳入決算額の推移

単位：百万円



歳出決算額の推移

単位：百万円

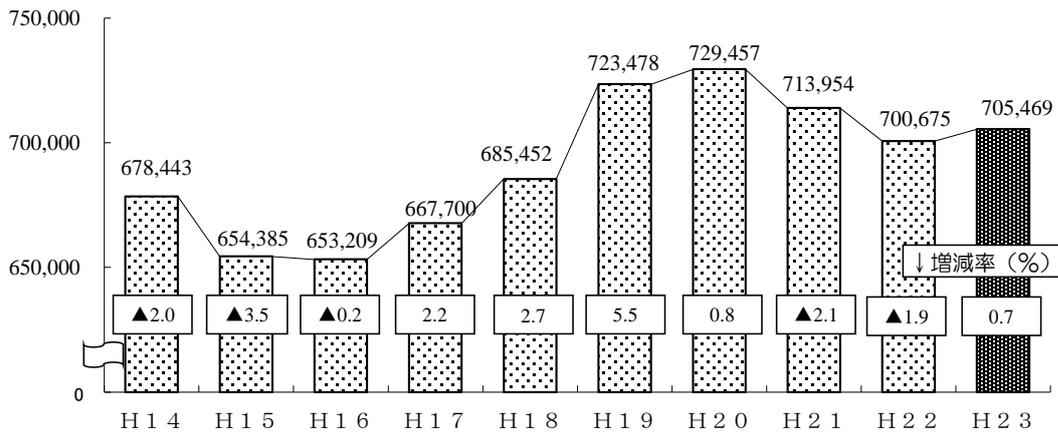


《市税》3年ぶりの増収

市税は、法人市民税が東日本大震災の影響が一部あったものの、企業収益が堅調であったことから増収となったことに加え、収納率が本市過去最高の97.9%となったことなどから、前年度と比べ、47億9,400万円(0.7%)増の7,054億6,900万円となりました。これにより、3年ぶりの増収となりましたが、直近10年間で税収が一番多かった20年度と比べると239億8,800万円少なく、依然として厳しい状況は続いています。

市税決算額の推移

単位：百万円



《市債》発行額は4年ぶりの減少

23年度当初予算では、必要とされる施策と財政規律のバランスを考え、22年度当初予算と市債発行額を同額としましたが、最終的な市債発行額は、前年度決算比47億8,800万円(▲3.7%)減の1,234億3,300万円とし、4年ぶりに減少しました。

市債残高は前年度末より205億4,400万円(0.9%)増の2兆4,311億8,500万円となり、3年連続の増加となりました。なお、将来の市債償還に備えて積立てている減債基金の残高は、1,227億円となっており、市債残高から減債基金残高を差し引いた実質的な市債残高は減少しています。(27頁「(6)市全体の借入金残高の推移」参照)

市債発行額及び市債残高の推移

市債発行額
(単位：百万円)

市債残高
(単位：百万円)

